

ブナ巨木と素材生産 事業地等の見学会を実施

三八上北森林管理署



9月10日(土)素材生産現場・製材工場の見学等、木が伐採され製品として利用されるまでの一連の流れを体験し理解を深め、木材の利用促進を図ることを目的に「森林と木を知るツアー」と題し見学会を実施しました。

当日は、公募による参加者7名が当署前に集合し、最初の目的地である素材生産請負現場に向かい、野辺地林業有限会社の方々の実演により、初めにチェーンソーでの伐倒作業から造



高性能林業機械を間近に見学

材作業までの一連の作業を見学しました。次に高性能林業機械であるブ口セッサによる枝払い、造材作業を見学し、初めて見る伐倒の迫力や人力の3分の1の早さで丸太にしてしまう高性能林業機械の早さと正確な



各地からの 便り

動きに感心していました。

次に、日本のブナの巨木を見学しました。このブナは「森の神」と呼ばれ平成19年に二本のブナとしては、日本一と全国巨樹・巨木林の会から認定されています。

また、近くにあるキハダの見学も行い、参加者は、予定時間を忘れるくらい森林の木々の中で癒やされました。午後からは、上北森林組合・木材



日本一のブナ巨木「森の神」

加工センターを見学し、初めて見るコンピュータ化された最新の製材機械とシステム化された作業仕組みや、ECOである木質バイオマスボイラーに感心している様子でした。

最後に青森県産材使用長寿命化住宅「いわ木の家」モデルハウスを見学、県の担当者から青森県産材エコポイント制度の説明などがあり、本日のツアーを終了しました。

参加された方々からは、「楽しかった」、「知り合いにも紹介したい」などの声が聞かれ、今後も継続したPR活動が必要と改めて感じました。

早池峰山巡視員・森林官へ 感謝状授与

三陸北部森林管理署



宮古市(旧川井村)、花巻市、遠野市にまたがる早池峰山及びその周辺地域は、森林生態系保護地域に指定されており、当署では、公募により7名の一般の方を巡視員に任命し、5月から11月にかけて保護管理、普及啓蒙活動を行っています。

巡視員の福地末治さんは、昨年9月初旬、「カスミ網」による違法密猟の跡を発見し、宮古警察署に通報するとともに、9月4日(土)、5日(日)の両日、当該地域を管轄する川井首席森林官と地元駐在所さんと一緒に明け方近くまで張り込んで2組4名の密猟者を取り押さえました。この協力と貢献に対して、宮古警察署長より、去る7月26日に福地さんに、8月2日に川井首席森林官に感謝状が手渡されました。

早池峰山及びその周辺地域には、県内外から数多くの方が訪れる一方で、



感謝状を手にした巡視員の福地末治さん



みどりの東北



実物大のイヌワシとノウサギで説明

9月12日(月)、岩手県大船渡市日頃市地区の国有林において、大船渡市立日頃市小学校児童20名、一般公募参加者4名と、ノウサギの隠れ家作りのイベントを行いました。
現地は昨年度に、希少猛禽類イヌワシの採餌環境を整備するため、等高線方向列状間伐を実施した箇所、隠れ家の材料には現地間伐材を使い

小学生とノウサギの隠れ家作り体験活動を実施
「生物多様性の保全を学ぶ」
三陸中部森林管理署



高山植物の盗掘・盗採、野生生物の密猟(漁)といった環境犯罪が後を絶たないのが事実です。当署では、引き続き、巡視員や地域の方々、関係機関と連携をとりながら早池峰山周辺森林生態系保護地域の保護管理に二層努力していきたいと考えています。

ました。

イベントの前段では、職員がそれぞれ実物大のイヌワシプレート・ノウサギぬいぐるみを使いながら、全国有数のイヌワシ生息地である気仙地方の特徴的な生態系を紹介し、イヌワシを守ることで地域の生態系の包括的な保全に繋がること、生態系のバランスと生物多様性保全の大切さを講義しました。

地域に希少なイヌワシが生息していることを学んだ児童達はノウサギの隠れ家作りを汗だくになりながら、それぞれ創意工夫し17基完成させました。



作業後に隠れ家とぬいぐるみを囲み記念撮影

作業終了後の感想では、「ノウサギの気持ちになって、入りやすいように工夫した。」「上に木の枝を置いて、隠れ家からイヌワシが見えるようにした。」「疲れたけど、初めての体験で楽しかった。生きもののことに興味があった。」と話し、森林の中での生



等高線方向列状間伐地での作業

物多様性の体験活動に満足した様子でした。

当署では今後とも地域の特徴を活かし、森林の大切さを学ぶイベント等を開催し、児童生徒の環境教育を充実させたいと考えています。

平成23年度東北森林管理局インターンシップの実施
米代西部森林管理署



東北森林管理局では、管内の大学生等を対象に、森林管理局・署における実際の行政実務を体験することにより、学習意欲の喚起と職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらおうことを目的に、毎年インターンシップを実施しています。

今年度は、岩手大学農学部(農学)の学生2名を対象に、8月29日(月)～9月2日(金)までの5日間の日程で、米代西部森林管理署の管内において実施しました。

初日は、開校式の後、米代西部森林管理署長から管内概要等の説明がありました。

二日目は、輪尺や測高器を使用したの立木調査やコンパスを使用しての境界管理手法、造林事業の請負箇所における監督業務などについて体験した他、「風の松原」など海岸林における治山事業箇所を見学しました。

三日目は、林道の改良工事と生産請負現場にて、共に現場代理人から直接話を聞く事ができました。特に、列状間伐実施地におけるスイングヤーダやプロセッサなどを使用しての



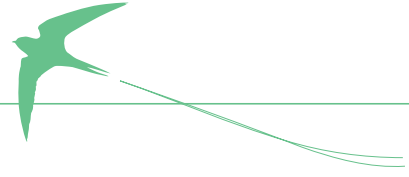
署の概要等について聞き入る様子

作業箇所では、初めて見る大型機械に興味津々の様子でした。

四日目は、岳岱自然観察教育林と仁鮎水沢スギ植物群落保護林において巡視活動を体験し、天然秋田杉の巨木を見て驚きの声も出していました。最終日は、地元の神馬銘木及び秋



みどりの東北



田県銘木センターへ出向いて地域材の利用状況を学びました。

米代西部森林管理署の業務を体験した学生からは、「大学の講義では学ぶことができない貴重な就業



原木販売についての説明

体験ができ、自分の将来について非常に参考となった。「森林・林業に対する理解がより深まり今後の勉学の励みとなった。」などの感想がありました。

今回の就業体験により、彼らが少しでも多くの見識を深め、将来、森林・林業の牽引者となってくれることを心より期待します。

「森林鉄道企画展」開催中

指導普及課

仁別森林博物館において、森林鉄道企画展を11月3日まで開催し

ています。

森林鉄道とは、森林から生産された丸太を町の貯木場などへ運ぶための鉄道のことです。

森林鉄道が無い時代は、流送といって、河原で丸太を筏などにして川に流し(筏流し)、貯木場まで運んでいましたが、水嵩が少ないところでは川底の石などに丸太がぶつかって痛めたり、紛失するものもあつたそうです。



筏流しの様子

日本の森林鉄道は、津軽森林鉄道が明治42年に開通したのが初めてです。その後、全国各地に森林管内での総延長は、463路線で、2939kmに達しました。

この間、第一次及び二次世界大戦の資材供給や、戦後復興のための住宅部材の供給、そして、高度経済成長を支えるなど、日本の近代化

のための一つとしての木材産業を牽引しました。

また、森林鉄道は、時には客車を



地域住民を乗せている様子

連結して、沿線住民を運ぶなど、地域の発展に欠かせない存在となっていました。

昭和30年代に入ると、トラックなどの性能が向上し、自動車による輸送が急成長していきます。

これとは逆に森林鉄道の役割は急速に無くなり、東北では、昭和47年には全ての森林鉄道が廃止され、その役目を終えました。

廃線後の軌道は、地域住民の生活道路や林道、歩道などへとその



蒸気機関車ボールドウィン号

姿を替え、現在でもその面影を見ることが出来ます。

このような歴史を後世に伝えるため、図表や写真、詳細データをそろえ企画展を開催しています。

仁別森林博物館では、当時稼働した蒸気機関車ボールドウィン号(米国ボールドウィン社製・B1リアタンク機)や8tボギー式ディーゼル機関車D-29(酒井製作所製)が展示されており、D-29には乗車も可能となっています。

敷地内では、軌道跡や務沢駅跡を見ることができ、また、近くには天然秋田スギが残っていて、その林内の散策路も整備されています。秋の紅葉を楽しみながら森林鉄道企画展へお越し下さい。なお、開館時間など詳しい内容は、東北森林管理局のホームページをご覧ください。



森林鉄道展を見学する様子